



少年の主張作文



文責 本宮小学校長 佐久間仁

学校・家庭・地域が一体となって青少年健全育成市民運動の充実を図ることを目的に、本宮市青少年健全育成推進大会が二十六日に開催されます。大会において、「少年の主張」として発表する児童の作文をご紹介します。(紙幅の関係で一部割愛して掲載いたします。)

《六年 柏木陽光くんの作文》

『環境保護についてできること』
みなさんは、水を飲まなかった日はありますか。私達は、蛇口をひねるといつでも新鮮な水をすぐに飲むことができます。でも、世界を見てみると、決して私達と同じ人ばかりではないようです。また、私達の日本でも、生活や産業活動による水利用の増加、都市化に伴う舗装による雨水の地下浸透の低下、地球温暖化による気候の

変化などが原因で、川の水の量が減少したり水質が悪化したりするなど、水の循環にかかわる様々な問題があり手放して安心してられない状況にあるようです。

水は、当然、私達にとって必要不可欠なものです。私は、身近な部分から調べ、水の環境保護についてできることを考えました。

まず、私達が使用している水の量についてインターネットをつかって調べました。みなさんは、一日にどのくらいの水を使っていると思いますか。

令和元年度に行われた調査では、一人あたり一日平均約二一四ℓの水を使用していることが分かりました。これは、二ℓのペットボトルで一〇七本分に相当する量です。私達は、これだけの水を毎日消費しているのです。

これがずっと日本中で続くことで、かなりの水を消費しているということが想像できます。使われ方としては、料理やお風呂、洗濯、手洗いやトイレなどでした。(中略)では、水の環境を守るために私達は、具体的にどんなことができるのでしょうか。調べてみると、子ども私達にも毎日の生活の中で簡単にできるものがあることを知りました。みなさんだったらどんなことを考えますか。

できることは本当にささやかですが、それは「節水」です。水を流したままにしないこと、お風呂の残り湯は、できるだけ洗濯や掃除に利用することです。また、きれいな水を守るために、川や湖にごみを捨てないことや積極的に地域の清掃活動に参加することもできそうです。

私達一人一人にできることは限られています。でも、一人一人の小さな心がけと努力の積み重ねが、地球の大切な水を守ることに繋がっていくのだと思います。水は、約二〇〇〇年で地球を循環するのだそうです。

今私達の目の前にあるきれいな水が、遠い未来の人々にも同じようにきれいなままで提供できるように、みんなで一步を踏み出しましょう。

朝食を見直そう



六日から十日までの五日間、今年度二回目の「朝食について見直す週間」でした。最終日(十日)の朝食摂取状況は以下の通りです。(調査児童数三八九人)

○朝食摂取者数

三八八人(九九・七%)

○朝食に野菜を食べた児童数

二三五人(六〇・四%)
○朝食に汁物を食べた児童数

二〇一人(五一・七%)

○昼食以外に誰かと食事した回数

・二回(朝と夕)

二八三人(七二・八%)

・一回(朝か夕)

九一人(二三・四%)

・〇回(ない)

一五人(三・九%)

前回の調査に比べ、朝食摂取率、野菜や汁物の摂取率いずれも向上が見られました。保護者の皆様のご協力に感謝いたします。ただ、まだ四割前後の子どもたちは野菜や汁物などがとれていない状況です。朝食は一日の活動のエネルギー源です。寒さが厳しくなり、起きるのがつらい朝ですが、今後も、栄養バランスのとれた朝食を準備していただくようお願いいたします。

心温まる出来事



地域の方から、「黄色い帽子をかぶった一年生が、自転車を倒して困っていたお年寄りをみんなで助けていた。とても感心した。」というありがたいお電話をいただきました。相手の身になって考えられる優しい子がいることをうれしく思います。心が温まる出来事でした。